

特別展

草原の王朝 契丹  
2012年4月10日～6月10日

契丹[遼]は今からおよそ1100年前、遊牧系民族が中国北方の草原に樹立した広大な帝国です。唐の滅亡後、916年に国号を「契丹」と定め、遊牧と農耕を中心としながら諸民族と活発な交流を保ち、200年にわたって豊かな国家を形成しました。

ところが契丹は自国で編纂した歴史書や周辺国による関連史料も乏しいため、長らく草原に消えた「まぼろしの国」となっていました。

年月は遥かに過ぎ去り、1930年代、鳥居龍藏や京都大学調査隊により皇帝の陵墓がある慶陵の調査が行われました。近年は広く契丹の領域各地で学術調査が進められ、契丹王族の墓や仏教寺院遺跡などの新発見・発掘が相次ぎ、その繁栄と文化レベルの高さを具体的に示す品々が、長い眠りから覚めつつあります。

黄金のマスクや腕輪、銀の宝冠や靴。銀に玉石をあしらった馬具。シルクロードを経て運ばれた西方のガラス器、瑪瑙・トルコ石のネックレス。北宋よりもたらされた白磁器。今なお彩色をのこす壁画や板絵。さらには白大理石の仏像や銀の舍利塔など、それは1000年のタイムカプセルから取り出された、想像をはるかに越える豪華な美術作品でした。

本展では、黄金製装身具の発見で大きな話題となった陳国公主墓や、2003年に発掘された未盗掘墓・トルキ山古墓の出土作品、契丹を代表する仏教遺跡のひとつ慶州白塔の塔内納入品など、中国・内蒙古自治区で発見され、世界初公開を含む国家一級文物を中心とした貴重な作品約120件により、知られざる契丹の多彩な文化と美術をご紹介します。



1 石造釈迦如来坐像 中京古城出土 応暦7年(957) 内蒙古博物院蔵  
2 ガラス幾何学文瓶 陳国公主墓出土 開泰7年(1018) 内蒙古文物考古研究所蔵  
3 板絵近侍像 巴林右旗出土 10-11世紀 巴林右旗博物館蔵

特別展

沖縄復帰40周年記念  
紅型  
琉球王朝のいろとかたち  
9月11日～10月21日

国宝  
黄色地鳳凰蝙蝠尽青海波文様紅型絹袴衣裳  
18-19世紀 那覇市歴史博物館



北 斎  
—風景・美人・奇想—  
(仮称)

10月30日～12月9日

重要文化財 潮干狩図 葛飾北斎 江戸時代(19世紀)  
本館蔵(中島小一郎氏寄贈)



特別陳列

橋本コレクション中国書画  
2012年7月28日～9月2日

本館の阿部房次郎や京都国立博物館の上野理一のコレクションなどから一世代、新たに独自の慧眼で中国書画を収集したコレクターが現れました。その一人が橋本末吉(1902-1991)です。

橋本は大蔵省から実業界に入り、日本アルコール販売株式会社などの役員・社長を歴任しました。戦後の動乱期に桑名鉄城所蔵の中国明清書画に着目して、遺品を多数購求したことによりコレクションの骨格を形成し、以来、大阪高槻の自宅に800点余りにのぼる作品を蒐集しました。その範囲は明清両朝を網羅し、明では浙派や明末の奇想派の作品、清では康熙・乾隆年間の諸作品などに特色があり、それまであまり顧みられることのなかった来舶画人や近現代の書画にも及びます。これらは現在、渋谷区立松濤美術館に一括して寄託されています。

本展は地元大阪初の大規模公開で、その優品を一堂に里帰りさせます。同じ大阪で育まれたコレクションですが、阿部とは蒐集時期も嗜好も大きく異なります。「橋本コレクション」の展覧は、普段より「阿部コレクション」に親しんでいる観覧者にとって、中国書画の見方に新たな示唆を与えることとなりましょう。



1



2



3



4

- 1 吳彬 溪山絶塵図 明・万曆43年(1615)
- 2 重要文化財 石鋭 探花図巻(部分) 明・15世紀
- 3 許友 草書五言律詩 清・17世紀
- 4 沈銓 雪梅群兔図(部分) 清・康熙55年(1716)

特別陳列

酒と食のうつわ  
杯のなかの小さな世界(仮称)  
2013年1月10日～2月11日

魚貝蒔絵杯 江戸時代 18～19世紀  
本館蔵 (カザールコレクション)

